



ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN WEEKLY REPORT

2017-2018

ロータリー:変化をもたらす

名古屋名南ロータリークラブ

■承認/1991年3月8日 ■例会日/火曜日・PM6:30 ■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル ■会長/入谷 直行 ■幹事/加藤 英敏 ■会報・雑誌・広報委員長/川瀬 悟
■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル2202号 TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com 2017-18年度 国際ロータリー会長 イアンH.S.ライズリー

第 1249 回

2018年2月13日(火) 晴 第24回

～ 平和と紛争予防/紛争解決月間
(2/23 ロータリー創立記念日・世界理解と平和の日) ～

斉唱 四つのテスト
出席 会員 56名 (出席率算入人数 45名)
出席 36名 出席率 80.00%
前々回補填率 95.92% (1月23日分)
ゲスト (一社) 赤煉瓦倶楽部半田
理事長 馬場 信雄さん
宝塚歌劇団 星組 草薙 稀月さん
松永 熱子さん

2月の誕生日

4日 神田 広一さん 13日 児島 徳和さん
15日 伊藤 圭一さん 22日 本多 利郎さん
23日 白藤 憲雄さん

配偶者誕生日

2日 木村 絹代さん 3日 伊藤 孝子さん
6日 大橋 潔さん 8日 川辺百合子さん
10日 安藤 眞弓さん 12日 上田 啓恵さん
21日 森田 俣子さん

2月の結婚記念日

11日 本多 利郎さん 18日 佐々木元彦さん
19日 鈴木 享さん 28日 大橋さなえさん

会長あいさつ

会長 入谷 直行さん

皆さま、こんばんは。

江戸川乱歩、徳川夢声と言ってパッと分かる方は、60代後半以降の方かなと思いますが、江戸川乱歩は怪人二十面相等で有名な推理作家で、徳川夢声は活動写真の弁士で、今で言うマルチタレントでテレビ草創期にはよく登場していました。

1956年、私がまだ5～6歳の頃ですが、江戸川乱歩や徳川夢声などの文化人が「日本宇宙旅行協会」を作りました。この会は、将来火星に移住して火星になる。火星の土地の分譲予約をするというような事をやっており、1,000円を払うと予約受付証を発行し、将来10万坪の火星の地主になるという事をやっ



ていました。当時の1,000円ですから高額だと思いますが、これは壮大なジョークでございます。時代が戦後の混乱からだんだん復興してきて、まだ物の無い時代ですから、よくそのような時代にこの発想をしていたなと感心します。今でも、火星に移住というような事を考える人はほとんど居ないと思いますが、アメリカの電気自動車テスラの創業者イーロン・マスクが、2月7日に火星に向けて大型のロケットを発射しました。NASAが普段実験しているものよりも更に大きいロケットを打ち上げ、今火星の軌道にのっているそうです。

これは推進燃料を再利用するような技術を使っており凄いなのですが、今回はこのロケットに、今度発売するテスラのスポーツカーを乗せて、そこにカメラをつけて、火星に行く映像を地球に送って流しているそうです。このイーロン・マスクという人は、南アフリカ出身でアメリカへ出てきて、電気自動車を開発する前は、国際的なネット上のオークションeBayでのオンライン決済のシステムであるPayPalを開発しています。電気自動車の方は、モデル3が大変な受注残を抱えており、売上が上がらず、2年連続大赤字です。そんな中でこのような凄いロケットを打ち上げるのですから、ひょっとしたらビル・ゲイツを超えるスケールかも知れないという感じがします。また、彼は大学時代に、「今後、人類にとって大切なのは、インターネットと持続可能なエネルギーと宇宙の3つだ」と言い放っており、これは段々現実のものになっており、本当に凄い男だと感じています。

幹事報告

幹事 加藤 英敏さん

1. 2月20日(火)は、21日(水)のIMへ例会変更の為、例会はございませんが理事会は開催致します。18時からM STEAK HOUSE (エムステーキハウス)でございます。お間違いの無いように宜しくお願い致します。

ニコボックス

◆ 赤煉瓦倶楽部半田 馬場理事長の卓話を楽しみにしております。

下村 徹嗣さん 入谷 直行さん 中村 勝さん
鈴木 清詞さん 白藤 憲雄さん 鈴井 一博さん
三浦 和人さん 三浦 隆さん 伊藤 圭一さん
児島 徳和さん 牧野 好弘さん 犬飼りさ枝さん

佐々木元彦さん 杉山 隆秀さん 大平 明子さん
加藤 英敏さん 安藤 修さん 坂田 信子さん
神田 広一さん 猪村 美之さん 新原 尚さん
高橋 司さん 吉木 邦男さん 水野 俊男さん
東山 直史さん 本多 利郎さん 木下 福郎さん
長尾 浅吉さん 三島多恵子さん 中西 芳子さん
小嶋 招啓さん 佐々木 暢さん 有川 英敏さん
福井 佳亮さん

- ◆ 2月15日に満84歳の誕生日です。元気です。感謝しています。 伊藤 圭一さん
 - ◆ 今月は家内の誕生日です。お陰様で元気に迎える事が出来感謝の一言です。 森田敏二三さん
 - ◆ 本日誕生日です。とっても嬉しい事ばかりの一日です。ありがたいです。 児島 徳和さん
- 本日合計 69,000円 累計 1,212,000円

同好会報告

■混声合唱団 川辺 清次さん
我が名南RC混声合唱団のピアニスト戸谷誠子さんのリサイタルがごぞいます。4月4日(水)熱田文化小劇場で行いますので、興味のある方はぜひご参加いただきたいと思ひます。チケットは1枚3,000円です。チケットを預かっていますので、私に声を掛けていただければと思ひます。

■グルメ部会 幹事 児島 徳和さん
先日ご案内をさせていただきました「絶品猪鍋を味わう会」を、2月23日(金)、松山閣 松山さんで行います。まだ席の余裕がごぞいますので、食べられた事がない方はぜひご参加ください。猪鍋はとてもヘルシーで、聞くよりも食べると絶品という印象がごぞいます。さらに松山閣 松山さんがより手をかけて、鮮度の良いものをご用意いただいているという事ですので、よろしくお願ひ致します。

アンチエイジングエクササイズ

中村 勝さん

ゲストごあいさつ

■宝塚歌劇団 星組 草薙 稀月さん
いつも見に来てくださってありがとうございます。未熟ではごぞいますが、これからも頑張りますので応援のほど宜しくお願ひ致します。

松永 熱子さん
草薙稀月の母です。いつもバスで来ていただいたり、今回の中日公演も観に来てくださりまして本当に感謝しております。ありがとうございます。
久しぶりに名古屋に帰ってきたのですが、部屋の大掃除をしていましたら、小さい時にロータリーのクリスマス会で歌っていた写真が出てきました。会場がその時の感じかなと思ひながら来てみたら、また違う素敵なお部屋に変わっていましたが、またここに来てさせていただき嬉しく思ひます。本当に皆さまありがとうございます。

外部卓話

■(一社)赤煉瓦倶楽部半田 理事長

馬場 信雄さん

皆さま、こんばんは。まず初めに、簡単なプロフィールを申し上げますと、私はミツカンに入社しまして、10数年居ましたが、その後子会社の「國盛」で知られる中埜酒造へ2年の約束で出向し、その約束は反故にされ、ずっと定年まで30数年間過ごして参りました。現在は、ボランティアでやっていた赤煉瓦関係をやっています。実は10数年前から、酒道というものに触れ、今日は元酒蔵としてのお話をさせていただきますと思っております。



酒道というのは、ほとんどの方がご存知無いと思ひます。これは、酒道は元々あったのですが、私たちの目に移る前に、廃れてしまったと言う事です。では、なぜ酒道というテーマを取り上げているかと言ひますと、酒道が日本文化の一番原点だと思ひているからです。酒道に関連して、皆さまは宴席において、ほとんどの場合、乾杯をされると思ひます。この乾杯は、江戸時代までは無く、明治の開国により欧米各国が日本に來まして、幕末あたりにペリーの軍艦が2回目に来た時に、幕府の要人を招いて交流を図りました。アメリカの軍人が乾杯をしているのを、幕府の要人が見よう見まねでやっている絵があり、これが日本人初の乾杯だと言ひられています。この後、色々な場で日本人は乾杯を始めました。ただ、欧米各国ではただ乾杯するだけなのですが、現在は色々なきさつやテーマを話し、「～に祈念して」と言ひます。これは海外には無く、日本独特のもので、実は江戸時代まで、この～に祈念に關係する儀式がずっと続いており、それが今でも続ひています。

大和時代、五穀豊穰、無病息災を村ごとに神様を祭ってお願ひ事をする儀式が始まりました。これを酒礼と言ひます。大和時代後半には日本酒の形ができてきます。当時お米はごく一部の人しか食べられない貴重なものでした。これを神様にご飯として捧げます。それから米を練った鏡餅を捧げます。もう一つお酒を捧げますが、この中で一番重宝されたのがお酒です。

全て原料はお米ですが、ご飯は炊いただけ、お餅も少しは手を加えますが難しくはない。でも日本酒は、時間と人の労力を掛けて手間暇かけていますから、最上位の神饌なのです。その文化は現在まで続ひています。酒礼の儀式が終わりましたら、神様に捧げてあるお酒を下げます。その器を村人たちと一緒に回し飲みします。あくまでもこれは神事なので、そのまま皆で少しずつ飲みます。なぜそうするかと言うと、神様が我々の気持ちを聞き届けてくれたその気持ちの詰まったお酒を分けてしまうと、その気持ちも散ってしまうという意味もあります。これを巡り盃の儀式、または神人共食文化と言ひます。また、下げてから回し飲みをする事を直会の儀式と言ひます。この酒礼の儀式は昔は至る所で行われていましたが、現在はほとんど見られなくなりました。

ただ唯一残っているのが濁酒祭りです。この近くですと大府の天神社では未だに濁酒祭りが残っていて、今月25日にも開かれます。濁酒祭りは全国で20社位、大変貴重なものが残っていると思います。非常に肅々と進められるものがございます。

奈良・平安時代になりますと、朝廷の時代になりますので、年がら年中催事が行われます。その中心となるのがやはりお酒で、お酒を作る専門部隊が朝廷にはありました。

鎌倉時代になりますと、頼朝が始めたと言われている式三献の儀式が始まります。これは三々九度の事で、武士の棟梁と家来が戦に行く時に頑張れとお祝いする儀式です。一杯目を飲みうちあわびを食べ、二杯目は勝ち栗、最期は昆布を食べます。これは当時縁起物とされ、「打ち（うちあわび）勝ち（勝ち栗）喜ぶ（昆布）こころあり」という事で、今でも格式高い儀式の時にはこれが使われます。

室町時代は、色々な文化に花が咲きます。華道、茶道、香道等色々なものが確立され、その内の一つが酒道です。当時は華道、茶道、酒道は三大道と言われていました。

江戸時代、酒道が一番花開いた時代であります。江戸時代は戦が無くなり、将軍家から見れば各大名、各大名から見れば家来の忠誠心をどうやって繋ぎ留めるのかが問題となりました。本来は村人達が神様をお願いする儀式だった酒礼を、相当のルール化をして始めたのが酒道です。これはとても難しいルールでした。武士の世界は厳格な世界なので、ルールを間違えるとペナルティがあり、浅野内匠頭は酒道儀式を執り成す上でのいざこざで切腹したと考えられています。

酒道にとって、最高の儀礼の場所は江戸城でございます。天保5年（1834年）に江戸城の白書院で実際に執り行われた儀礼ですが、正月に御三家が将軍に挨拶に伺います。その時の酒道の儀礼の様子が資料にあります。将軍に対して配列をしたのが紀州藩士の徳川斉順です。酒道とは一体どういうものか。武家の奥座敷で行います。有名な荒城の月では「春 高樓の花の宴 巡る盃 影さして」と、仙台の青葉城で武士達が酒道をしている様子を歌っています。ここで言う「巡る盃」は先ほどから言っている共有する巡り盃の事です。

簡単に説明すると、主人である棟梁が一番上座に座り、ほとんど1日掛かりで宴会が執り行われます。ただ、全てが物凄く厳粛な儀式です。まず初めに主人が簡単にご挨拶をします。その後、補助する者が主人の所へ大盃に酒をなみなみと注いで持ってきます。主人が大盃に口をつけます。それを補助者が受け取って、左右に上席順に武士が並んでいますので、最上席の方から一口、次に相向かいへ行き一口、斜め向かいに行き一口…と一番最期まで行きます。そして今度は逆の順序で巡ってきます。これを上り盃と言います。これで大盃の役割は終わります。

その後、お互いの前に小盃がございまして、下位の者が上位の者にお注ぎして飲まれます。飲んだ後は上位の者が下位の者に渡して飲まれます。ここで主人が簡単に挨拶をして礼講が終わります。礼講が終わってこれから食事となりますが、これが無礼講です。無礼講という言葉は普段使っていると思います。私の若い頃、宴席に仕事の関係で遅れたりしま

すと、先輩が「駆けつけ三杯だ」と飲まされて席へ着いたものです。先ほどの儀礼で盃が三回巡り、巡り盃は三回でしたので、つまりこの駆けつけ三杯とは礼講の事で、それからは無礼講でという意味です。実はこの話を中日新聞に書かせていただき、同世代の方から大変高い反応をもらいました。

次に、公式な江戸時代のお銚子の注ぎ方、受け方をお話ししたいと思います。受け方には、武家流と公家流があります。武家流は、左手で持ち、中指と薬指の間に盃の狭まった所、糸底を挟みます。親指と人差し指で胴体を掴みます。しっかり持ってください。武家は、礼講、無礼講問わずほとんど話をしません。ただ注いでいただいた方にはお礼を申し上げなければいけないので、背筋を伸ばしそのまま前に傾け自然とお礼を意思表示する形になります。

公家流は、今の手を開いて一つ左へ移動してください。人差し指と中指の間に糸底が入り、親指を少し付けます。右手を添えますが、中の3本を中心として添えます。お上品な正式な公家流です。注ぎ方は、カーブの下辺りを持ち、右手で注ぎます。注ぐのは右手で、受けるのは左手なのは何故でしょうか。鎌倉以降、戦が止まない時には飲んでいても安心できません。サッと刀が抜ける様に左手で受けます。逆に注ぐ方は、相手に危害を加えませんという事で右手を使います。注ぎ方は、必ず接しないように、右へシュッと捻り、頭の高さを変えてはいけなくてお尻を下げると同時に捻ります。ご法度は幾つかありますが、とにかく料理の上で注ぐ事はまかりなりません。料理には神が宿っていますので、注ぐ人も受ける人も必ずどちらかに外すのがルールです。

今日は少し時間ありませんので、後は資料をご覧いただいて、晩酌の時にでも少し真似してみてくださいと思います。昔と同じ事をその通りにやる必要は無いと思いますが、「～に祈念して」という、神にお祈りする気持ちは、全ての酒道の中に宿っています。現代往々にしてそういう事を忘れてしまいがちですが、何かの折に少し思い出していただけたら有難いと思っております。ご静聴ありがとうございます。

第 1251 回例会 (2月27日) のご案内

創立記念例会 於：あつた蓬莱軒 本店